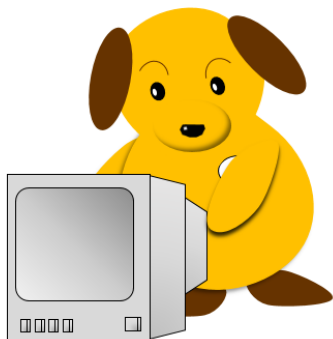


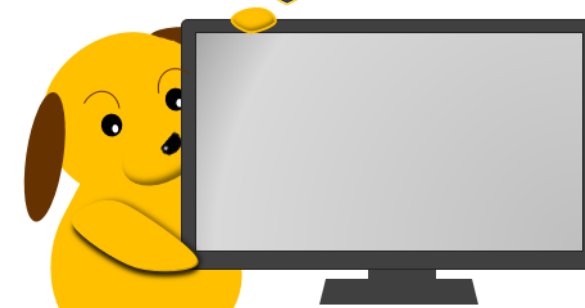
特集



令和3年4月19日
東京税関



カラーテレビの輸入



- ☆近年もカラーテレビの輸入は堅調に推移！
- ☆中国からの輸入が7割超！
- ☆東京港が輸入数量及び金額ともに全国トップ！

はじめに

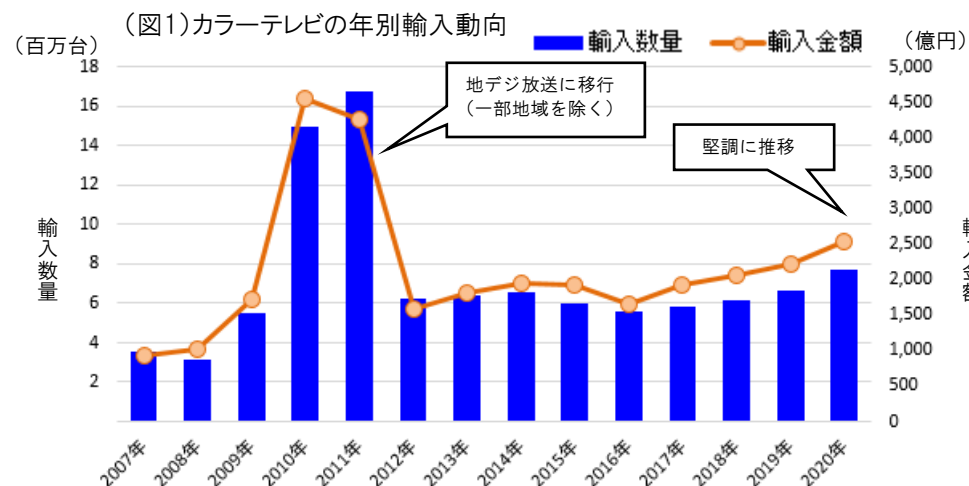
日本でカラーテレビの本放送が開始されたのは1960(昭和35)年でした。当時、一般の家庭にあったのは白黒テレビで、カラーテレビはとても珍しいものでした。総務省の消費動向調査によれば、カラーテレビの本放送開始から6年後の1966(昭和41)年においても、白黒テレビの普及率が94.4%だったのに対し、カラーテレビの普及率は0.3%しかなく、まだまだ珍しいものでした。その後、高度経済成長の波に乗ってカラーテレビの普及率が伸び、1973(昭和48)年には白黒テレビの普及率を上回りました。1983(昭和58)年に調査項目から白黒テレビの普及率が除外された後も、カラーテレビの普及率の調査は続けられており、2020(令和2)年3月末の調査によれば、二人以上の世帯におけるカラーテレビの普及率は96.2%で、保有台数は、1世帯当たり約2台となっています。

今回の特集では、私たちに身近な家電であるカラーテレビを取り上げます。

本特集の「カラーテレビ」は、テレビジョン受像機器（ラジオ放送用受信機又は音声若しくはビデオの記録用若しくは再生用の装置を自蔵するかしないかを問わない。）で、ビデオディスプレイ又はスクリーンを自蔵するよう設計されているもの（カラーのものに限る。）

輸入統計品目番号8528.72-010 液晶式のもの
8528.72-090 その他のもの
に分類されるものです。

年別動向



上図1は、2007年以降のカラーテレビの年別輸入動向を示したものです。

2010～11年の大きなピークは、2011年7月にアナログ放送がほとんどの地域において終了し、地上デジタル(地デジ)放送に移行されたことに伴い、地デジ放送対応機種需要があったことによるものです。なお、同年3月11日に発生した東日本大震災の影響を考慮して、東北3県(岩手、宮城、福島)は、地デジ放送への移行が延期となったことから、全国で地デジ移行が完了したのは2012年4月でした。

近年も、当時ほどの伸びはないものの、輸入数量及び金額は堅調に推移しています。

月別動向

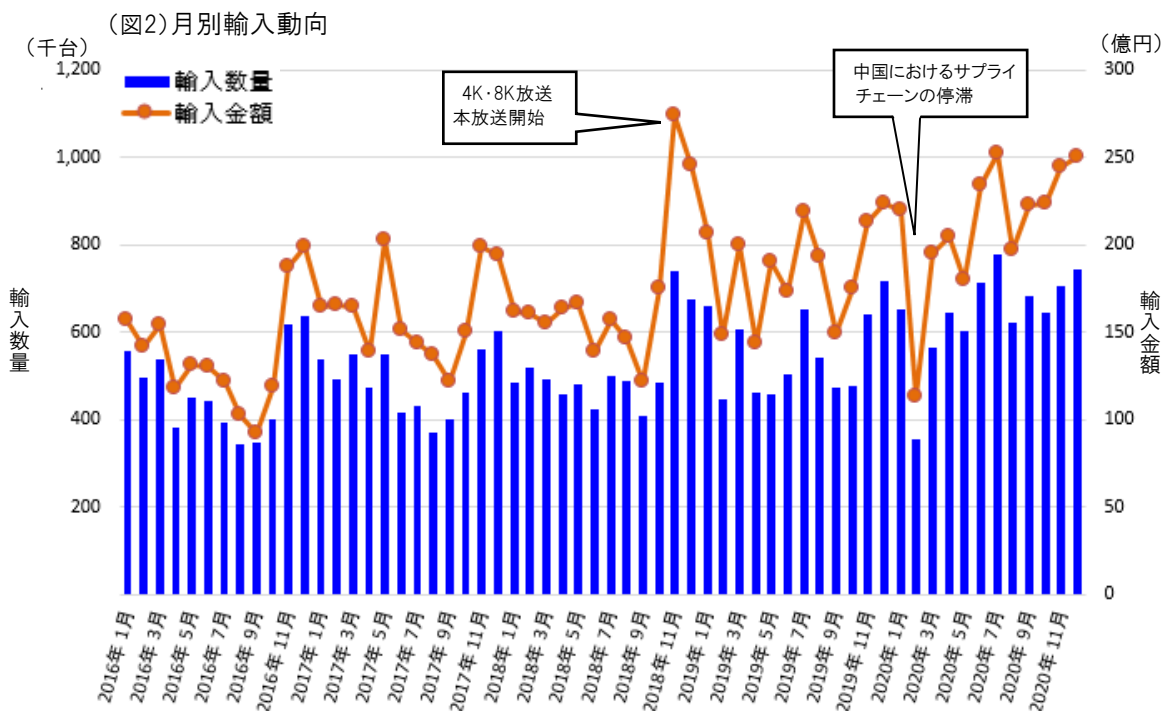
2016年以降のカラーテレビの月別輸入動向を右図2で見てください。

カラーテレビは、月ごとに輸入の増減がみられる品目ですが、毎年11～12月においては輸入が増加していることがわかります。これは、年末年始向けに販売する商品の輸入が増えたものと考えられます。

2018年11～12月には最近5年間のうちでは特に輸入金額の大きな増加があったことがわかります。これは、2018年12月から4K・8K放送(正式名称:新4K8K衛星放送[※])の本放送が開始されたことに伴い、対応機種需要が高まったことによるものと考えられます。

なお、2020年2月の輸入の減少は、中国における新型コロナウイルス感染拡大の影響によってサプライチェーンの停滞があったことによるものです。その後の輸入の増加は、わが国における新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛に伴う「巣ごもり需要」などを反映しているものと考えられます。

※ 4K・8K放送については、本資料4頁も併せてご覧ください。

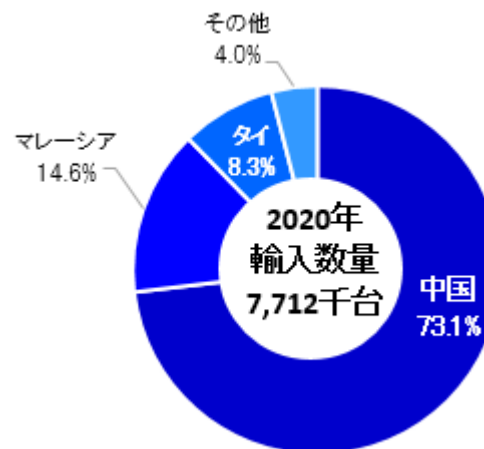


国別動向

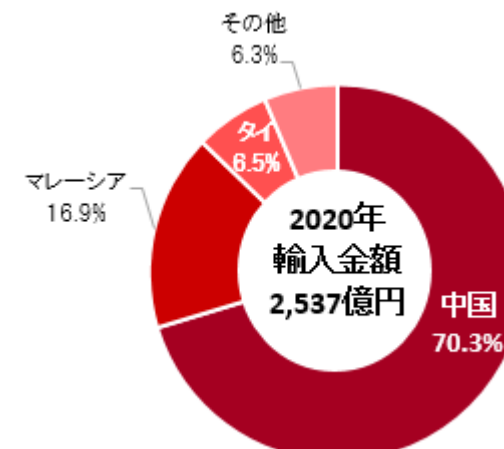
2020年の国別輸入実績では、中国が輸入数量及び金額で全体の7割を超えています。シェアが大きいため、中国における新型コロナウイルス感染拡大の影響によるサプライチェーンの停滞が2020年2月の月別動向に大きく反映されたものと考えられます。

中国に続いて、マレーシア、タイの順に輸入数量及び金額ともに多くなっており、これら3か国で全体の9割を超えています。

(図3) 国別輸入数量シェア



(図4) 国別輸入金額シェア



品目別動向

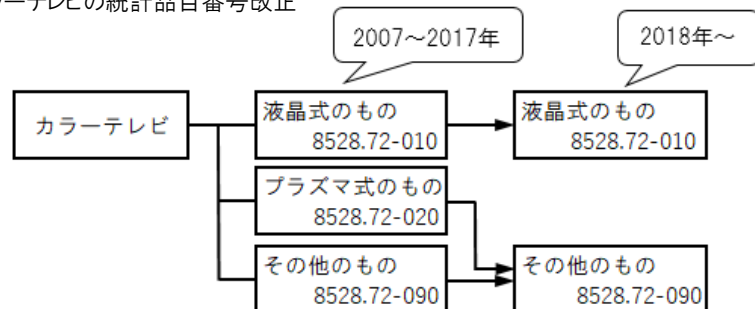
貿易統計は、関税法に基づき、輸出入の許可を得るために税関に提出された輸出入申告書等に記載の品目(9桁の統計品目番号が付されます。)、輸出入金額、数量などの情報を取りまとめて作成及び公表しているものです。

品目別の集計は、この9桁の統計品目番号ごとに行われますが、統計品目番号は技術の進歩などに合わせて改正が行われることがあり、これによって貿易統計の集計内容も変わることになります。

では、カラーテレビの輸入統計品目番号はどうなっているか見てみましょう。

2007年においてカラーテレビには「液晶式」、「プラズマ式」、「その他」の3つの区分がありました。2018年からは、統計品目番号の改正があったために「プラズマ式」の区分はなくなり「その他」に含まれることになったため、カラーテレビは「液晶式」と「その他」の2つの品目で集計されるようになりました(下図5参照)。

(図5)カラーテレビの統計品目番号改正



上記統計品目番号の改正をふまえ、2007年、2011年、2017年、2020年について品目別の輸入数量及び金額を表にすると下のようになります。

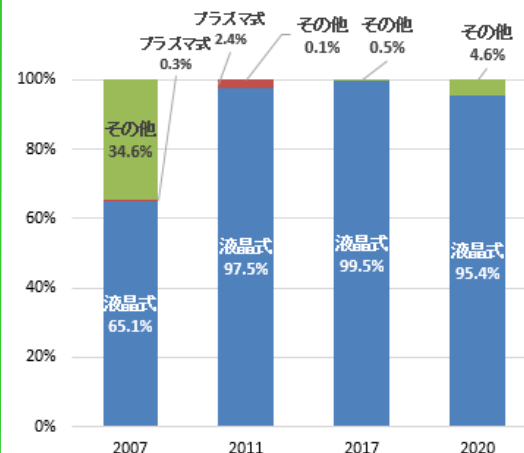
(表1)品目別輸入数量及び金額

(単位 数量:千台 金額:億円)

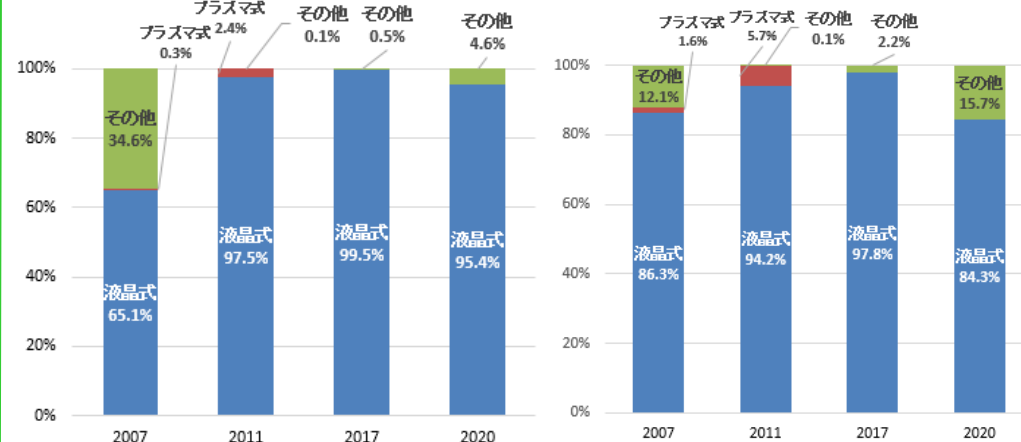
	2007年		2011年		2017年		2020年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
液晶式	2,302	804	16,350	4,017	5,817	1,889	7,357	2,140
プラズマ式	11	15	399	244	0	0		
その他	1,226	113	13	3	28	43	355	397
合計	3,538	932	16,762	4,264	5,844	1,932	7,712	2,537

この表から、輸入数量及び金額に占める品目別シェアの推移を図にすると下のようになります。

(図6)輸入数量に占める品目別シェアの推移



(図7)輸入金額に占める品目別シェアの推移



上図6、7によると、2007年以降に「液晶式」のシェアが伸び、2011年には「プラズマ式」と合わせると輸入数量及び金額ともに99%以上に達しました。一方、「その他」の輸入数量及び金額は、2011年にかけて減少しています。

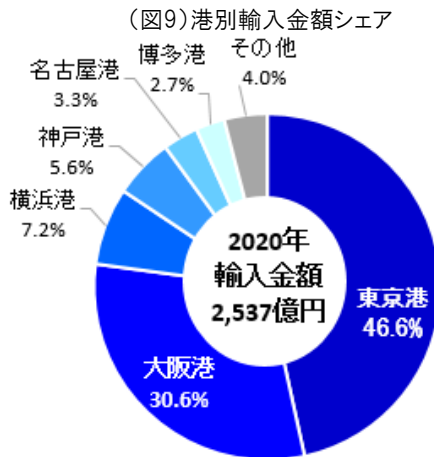
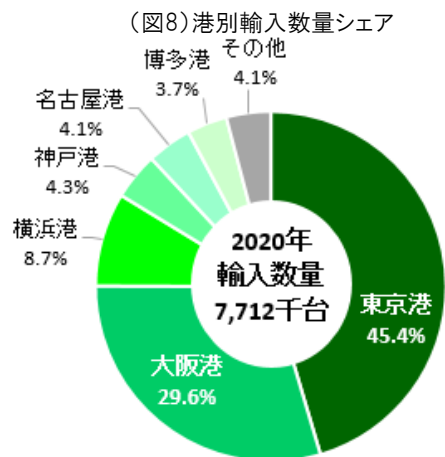
これは、2007年当時「その他」として輸入されていたブラウン管のカラーテレビが、地デジ放送移行に伴い、「液晶式」及び「プラズマ式」の薄型カラーテレビに代わっていったことを示すものです。2009年から2011年にかけては、家電エコポイント制度(地球温暖化対策と地デジ対応テレビの普及を図る目的で導入された制度で、省エネルギー性能の高い地デジ対応テレビ等の購入で付与されるポイントを様々な商品等に交換できました。)があったことも、薄型カラーテレビへの買い替えの後押しになっていたものと考えられます。

なお、「その他」として輸入されるテレビは、2017年以降2020年にかけて増加していますが、これは、2017年頃にメーカー各社より発表された有機ELテレビの輸入の増加によるものと考えられます。有機ELテレビには、液晶テレビのディスプレイに不可欠なLEDバックライトがないことから、より薄型・軽量化が可能であり、今後の動向が注目されます。

港別動向

2020年の港別輸入実績では、東京港が輸入数量及び金額ともに全国トップとなっています。

続いて、大阪港、横浜港、神戸港、名古屋港、博多港の順に、大消費地を抱える主要港が多くなっており、これらの6港で全体の輸入数量及び金額の9割を超えています。



ひとくちメモ

4K・8K放送とは？

4K・8K放送とは、現行の高精細度の放送（ハイビジョン放送）よりも、映像や動画の解像度が高い超高精細度の放送（スーパーハイビジョン）のことです。「K」は1,000の意味で、水平（横）方向の画素数を表しています。つまり、4Kなら $4 \times 1,000 = 4,000$ 程度（実際は3,840）の画素数があることを表しています。特長の1つとして、解像度の高さがあります。解像度は画素数と密接な関係があり、一般に画素数が大きい方が解像度が高くなります。画素数を比較してみましょう。

現行フルハイビジョン 水平1,920×垂直1,080＝ 約200万画素

4K放送 水平3,840×垂直2,160＝ 約800万画素

8K放送 水平7,680×垂直4,320＝約3,300万画素

となります。この他、表現可能な色や明るさの範囲の大幅な拡大、画像の高速表示などにより、臨場感あふれる映像を楽しむことが可能です。



おわりに

最近、カラーテレビは、地上波の視聴や録画したビデオを視聴するだけでなく、パソコンやスマートフォンと接続して、それらの画面をテレビの大きな画面に映し出すなどといった、新しい使い方がされるようになってきました。

これは、動画配信などを行っているコンテンツサービスを利用している人が増え、映画などの提供コンテンツをいつでも楽しむことができるようになったことと関係があるものと考えられます。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、家で過ごす時間が増えたため、こうしたコンテンツをより美しい映像や音で楽しみたい、家族と大きな画面で見たい、今まで設置がなかった部屋に買い増したい、といったニーズが高まったようです。さらに、2011年にほとんどの地域で実施された地デジ放送移行に伴ってカラーテレビを購入した場合は10年が経過して買い替え時期となっていること、特別定額給付金が支給されたことなども、カラーテレビ購入の後押しとなり最近の輸入動向にも影響しているものと考えられます。

カラーテレビの輸入数量・金額動向(年別)

(単位 数量:千台 金額:億円)

年	輸入数量	輸入金額
2007年	3,538	932
2008年	3,122	1,013
2009年	5,510	1,734
2010年	14,945	4,558
2011年	16,762	4,264
2012年	6,265	1,577
2013年	6,420	1,814
2014年	6,566	1,938
2015年	5,986	1,918
2016年	5,607	1,652
2017年	5,844	1,932
2018年	6,159	2,065
2019年	6,640	2,233
2020年	7,712	2,537

カラーテレビの輸入数量・金額動向(月別)

年月	輸入数量	輸入金額
2016年 1月	556	156
2016年 2月	495	142
2016年 3月	538	154
2016年 4月	382	118
2016年 5月	451	131
2016年 6月	443	131
2016年 7月	393	121
2016年 8月	344	103
2016年 9月	348	93
2016年 10月	402	118
2016年 11月	617	187
2016年 12月	638	198
2017年 1月	538	164
2017年 2月	494	165
2017年 3月	549	165
2017年 4月	471	139
2017年 5月	549	202
2017年 6月	415	152
2017年 7月	433	144
2017年 8月	371	137
2017年 9月	400	122
2017年 10月	463	150
2017年 11月	561	198
2017年 12月	603	194
2018年 1月	483	162
2018年 2月	520	160
2018年 3月	491	155
2018年 4月	457	163
2018年 5月	480	166
2018年 6月	425	139

(単位 数量:千台 金額:億円)

年月	輸入数量	輸入金額
2018年 7月	501	157
2018年 8月	490	146
2018年 9月	410	122
2018年 10月	485	175
2018年 11月	741	274
2018年 12月	675	245
2019年 1月	661	207
2019年 2月	447	148
2019年 3月	607	199
2019年 4月	461	143
2019年 5月	456	190
2019年 6月	504	173
2019年 7月	651	219
2019年 8月	542	193
2019年 9月	472	149
2019年 10月	479	175
2019年 11月	642	213
2019年 12月	718	224
2020年 1月	653	220
2020年 2月	354	113
2020年 3月	564	195
2020年 4月	644	204
2020年 5月	603	180
2020年 6月	714	234
2020年 7月	779	252
2020年 8月	624	197
2020年 9月	682	222
2020年 10月	646	224
2020年 11月	706	245
2020年 12月	744	250

カラーテレビの国別輸入数量(2020年)

(単位 数量:千台)

国	輸入数量	シェア
中国	5,639	73.1%
マレーシア	1,123	14.6%
タイ	641	8.3%
その他	310	4.0%
合計	7,712	100.0%

カラーテレビの国別輸入金額(2020年)

(単位 金額:億円)

国	輸入金額	シェア
中国	1,784	70.3%
マレーシア	429	16.9%
タイ	164	6.5%
その他	161	6.3%
合計	2,537	100.0%



カラーテレビ(品目別)の輸入数量及びシェアの推移(年別)

液晶式のもの：輸入統計品目番号8528.72-010
 プラズマ式のもの：輸入統計品目番号8528.72-020
 その他のもの：輸入統計品目番号8528.72-090
 (単位 数量:千台)

年	液晶式のもの		プラズマ式のもの		その他のもの	
	数量	シェア	数量	シェア	数量	シェア
2007年	2,302	65.1%	11	0.3%	1,226	34.6%
2008年	2,610	83.6%	10	0.3%	502	16.1%
2009年	5,287	95.9%	1	0.0%	222	4.0%
2010年	14,711	98.4%	171	1.1%	63	0.4%
2011年	16,350	97.5%	399	2.4%	13	0.1%
2012年	6,153	98.2%	108	1.7%	4	0.1%
2013年	6,396	99.6%	23	0.4%	1	0.0%
2014年	6,563	100.0%	1	0.0%	1	0.0%
2015年	5,975	99.8%	0	0.0%	10	0.2%
2016年	5,600	99.9%	0	0.0%	6	0.1%
2017年	5,817	99.5%	0	0.0%	28	0.5%
2018年	6,065	98.5%			94	1.5%
2019年	6,495	97.8%			146	2.2%
2020年	7,357	95.4%			355	4.6%

カラーテレビ(品目別)の輸入金額及びシェアの推移(年別)

液晶式のもの：輸入統計品目番号8528.72-010
 プラズマ式のもの：輸入統計品目番号8528.72-020
 その他のもの：輸入統計品目番号8528.72-090
 (単位 金額:億円)

年	液晶式のもの		プラズマ式のもの		その他のもの	
	金額	シェア	金額	シェア	金額	シェア
2007年	804	86.3%	15	1.6%	113	12.1%
2008年	937	92.5%	11	1.1%	65	6.4%
2009年	1,705	98.3%	2	0.1%	27	1.6%
2010年	4,448	97.6%	98	2.1%	13	0.3%
2011年	4,017	94.2%	244	5.7%	3	0.1%
2012年	1,479	93.8%	96	6.1%	2	0.1%
2013年	1,792	98.8%	22	1.2%	1	0.0%
2014年	1,936	99.9%	2	0.1%	0	0.0%
2015年	1,915	99.8%	1	0.0%	3	0.2%
2016年	1,642	99.4%	0	0.0%	10	0.6%
2017年	1,889	97.8%	0	0.0%	43	2.2%
2018年	1,905	92.2%			160	7.8%
2019年	2,001	89.6%			232	10.4%
2020年	2,140	84.3%			397	15.7%

カラーテレビの港別輸入数量(2020年)

(単位 数量:千台)

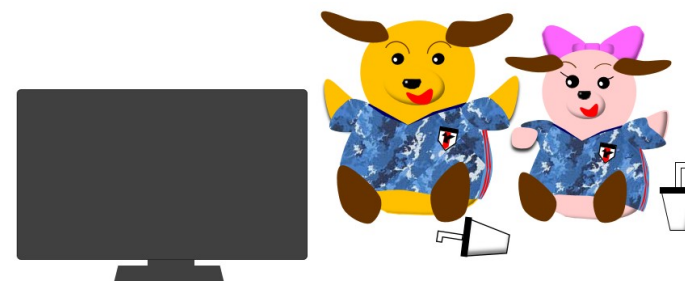
港	輸入数量	シェア
東京港	3,504	45.4%
大阪港	2,285	29.6%
横浜港	668	8.7%
神戸港	335	4.3%
名古屋港	319	4.1%
博多港	286	3.7%
その他	316	4.1%
合計	7,712	100.0%

カラーテレビの港別輸入金額(2020年)

(単位 金額:億円)

港	輸入金額	シェア
東京港	1,181	46.6%
大阪港	776	30.6%
横浜港	184	7.2%
神戸港	142	5.6%
名古屋港	84	3.3%
博多港	69	2.7%
その他	102	4.0%
合計	2,537	100.0%

参考資料:増田健一,「懐かしくて新しい昭和レトロ家電」,山川出版社,
2013, 53-57p



本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>